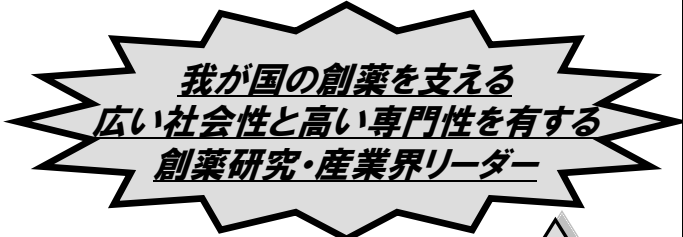


## 教育プログラムの概要及び採択理由

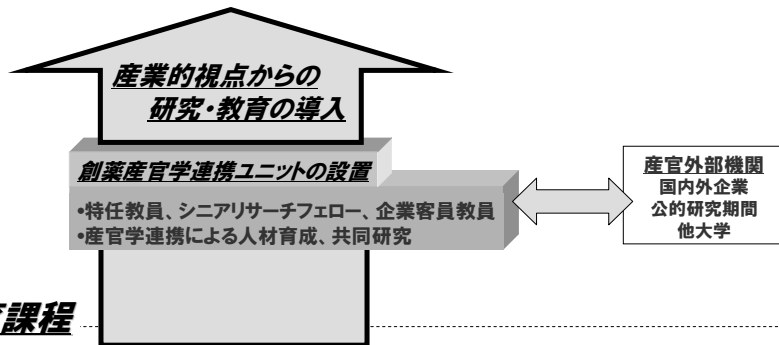
機 関 名	京都大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	実践的創薬戦略家養成プログラム		
主たる研究科・専攻名	薬学研究科		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 藤井 信孝		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>ゲノム医療、再生医療が加速化される今日、これらとの連携・シナジーを基盤とした各種難治性疾患の clinical benefitに繋がる革新的創薬が求められている。急速に進展する科学技術に即応するためには、通常の固定カリキュラムによる教育体制のみならず、国際情勢と社会ニーズに的確に対応する実践教育が求められる。本プログラムにより、京都大学薬学研究科内に産官学との人材教育連携を図る機構「京都大学・創薬産官学連携ユニット」を開設し、薬学研究科と生命科学研究所共通の新規教育プログラム「実践的創薬戦略家養成プログラム」を実施する。ここで、博士前期課程・博士後期課程大学院生を対象に先端的な創薬戦略の実践教育「創薬戦略修得コース」と「創薬プロジェクトリーダー養成コース」を開講することにより、我が国の革新的創薬を創成・牽引するリーダーを養成する。なお、本新設コースは薬学研究科の大学院教育カリキュラムの一部の科目を再編して、単年度完結型の追加コース(副専攻コースの増加単位)として実施する。一方、生命科学研究所では、本新設コースを単位認定の伴う正式な選択科目として導入する。本プログラムの実施により、両研究科の大学院生に対して、社会ニーズに即応した実践的スキルを修得するコースを提供すると共に、履修科目の選択肢の拡張により柔軟性に富んだ学位取得プロセスを保証する。</p> <p><b>【創薬戦略修得コース】(博士前期課程、博士後期課程対象:1年間)</b></p> <p>[養成すべき人材像]: 実践的な創薬戦略を修得し、以下の能力を有する人材を養成し、大学院博士課程、製薬を中心とする企業や各種研究機関に輩出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高度な科学技術の専門知識とスキルを有し、その創薬への応用能力を有する。</li> <li>● 自らの研究テーマを、企業・社会ニーズに繋げる広い視野を有する。</li> <li>● 実践的な研究戦略、企業戦略を立案する能力を有する。</li> </ul> <p>[養成対象者]:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 京都大学薬学研究科と生命科学研究所の博士前期課程学生・博士後期課程学生・ポスドク</li> <li>● 京都大学他学部、他大学理系学部の博士前期課程・博士後期課程学生・ポスドク(ただし、指導教員の許可を必要とする。)</li> <li>● 博士前期課程学生相当の能力を有する企業の若手研究員</li> </ul> <p><b>【創薬プロジェクトリーダー養成コース】(博士後期課程対象:1年間)</b></p> <p>[養成すべき人材像]: 以下の能力を有する創薬プロジェクトリーダーを養成し、製薬を中心とする企業、大学、各種研究機関に輩出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 創薬プロジェクトを立案・実践するマネジメント力を有する。</li> <li>● プロジェクト早期完遂のために、チームを率いるリーダーシップを持つ。</li> <li>● 新たな創薬研究開発を開拓し、先端研究の指導力を有する。</li> <li>● 研究遂行時に生じる難局に対し、実践的な課題解決力を有する。</li> <li>● 世界で戦える国際性を有する。</li> </ul> <p>[養成対象者]:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 京都大学薬学研究科と生命科学研究所の博士後期課程学生とポスドク</li> <li>● 京都大学他学部、他大学理系学部の博士後期課程学生とポスドク(ただし、指導教員の許可を必要とする。)</li> <li>● 博士後期課程学生相当の能力を有する企業の若手研究員</li> </ul>			

履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

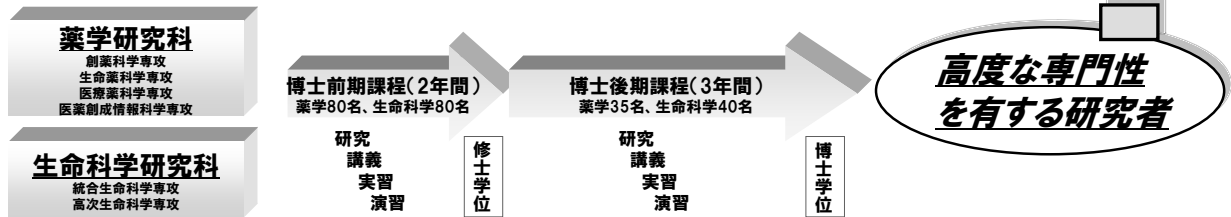
**実践的創薬戦略家養成プログラム**



**博士前期・後期課程に、単年度完結型の追加コースを開講**



**現状の大学院教育課程**



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、ファカルティ・ディベロップメントの実施体制も充実しており、薬学部以外の出身者に対する基礎科目の提供など、学生に対する修学上の支援も整備されている。

教育プログラムとしては、薬学教育の多くが薬剤師養成を主たる目的とする6年制に移行した現況の下、創薬研究者の不足を補うために生命科学研究科を組み込んだプログラムとして、「我が国の創薬を支える広い社会性と高い専門性を有する創薬研究・産業界リーダー」を養成するために「創薬戦略修得コース」（博士前期課程及び博士後期課程）と「創薬プロジェクトリーダー養成コース」（博士後期課程のみ）2つの実践的な単年度コースを開講し、社会のニーズに対応した実践的スキルを修得させる取組であり、大学院教育の実質化に資するものとして高く評価できる。ただし、豊富な講義内容を本来の研究に従事しつつ単年で修得させることとなるため、実施にあたっては学生の負担等も配慮した運営が望まれる。本教育プログラムは2つの研究科にまたがり、大学全体としての支援体制も計画されており、今後の展開が大いに期待できる。